

事業計画書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名 ニノバ 交差点の会

1 事業種別	行政提案型・自由提案型
※行政提案型 事業テーマ	(事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入) 「お互いさま」があふれるまちづくり ～すべての人が互いを認め合い、支え合い、共に輝き続ける 安心と活力のまち 宝塚～
2 事業名	「みんなで作ろう！みんなの居場所」 「ニノバで過ごしてみよう」
3 事業を行おうとした動機・必要性	娘が不登校で学校に行けなくなったという経験から、子どもが学校に行けないということは、本人も、家族も友達も先生方もみんながとても辛く苦しい思いをする事を知りました。娘が学校に行けなかったとき、ただじっと娘の話を聞いてくれたのは、近くの唐揚げを売っているお店のおじさんでした。 特別な事ではなく、日常の何気ない話を聞いてもらっていた様です。 最近の子どもたちは、両親ともに働いている家庭が多く、親も平日は子どもの話に耳を傾けている暇はあまりなく、ゲームで時間つぶしをさせたり、習い事や塾に通わせたりしています。保護者の収入が増えた分、子育てが人任せ、道具任せになっているように思えてなりません。<u>子どもが何かにつまづいた時、自分で解決できる力が育っていないのでは？子ども自身が悩み、考え、気持ちを口にして話せる人を見つけて、一人で悩まない環境を作りたい</u>と思い、仲間と一緒に、第一小学校の近くで、<u>みんなの居場所「ニノバ」</u>を運営することになりました。 「ニノバ」の名前の由来は、私とあなたの場所＝2人の場所という意味の造語です。（「人」という文字からもわかるように、人の最小単位は2人。支えあうもう一人の存在が必要です。） 不登校の子どもたちにとっての最初の一步として、また地域の子どもの居場所として、駄菓子屋でもある「ニノバ」の存在の必要性を強く感じています。

4 事業を行う目的と期待される効果

※審査基準のうち「効果の広域性」「独創性」「継続性」が判断できる内容を含めて記載してください。

【目的と期待される効果】

①「ニノバ」の活動目的は、にぎわいや活動を目的とした場ではなく、ふと立ち寄った一人を静かに受けとめられるような日常の場所を目指しています。

毎日卵焼きを焼くように、お味噌汁を作るように、ここへ来た人みんなが、かけがえのない日常を過ごしてほしいと願います。

②「ニノバ」では、敢えて子どもでも、商品の対価として相応のお金を払うことにより、支援者としてではなく、お店屋さんとお客さんとして其々の役割を果たすことで対等な関係となるようにします。

③居場所としての目的の一つに、午前中は、不登校のお子さんの外出の機会としての環境を整え、最初の一步となる居場所を目指します。（Wi-Fi 環境など）

④不登校の親の会や、最近見かけなくなった「公園デビュー」の場、また、子育て世代のママたちの交流の場としても使って頂ける様、チラシなどで呼びかけを行っていきます。

⑤電子マネーが一般化する中で、駄菓子屋ではリアルなお金の体験をすることで、お金の大切さを学ぶ場所としての効果も期待できます。

⑥店内に「喫茶 ニノバ」を併設し、地域の人や高齢者が買い物帰りや散歩の途中にちょっとひと休み出来る場となることを期待します。

⑦地域の方に喫茶メニューを提供することでこの活動を継続的に行える仕組み（喫茶メニューの代金の一部が駄菓子の仕入れ等に使われることや、子ども食堂の食材の費用となること）を理解していただき、協力をお願いしていきます。

⑧今回の補助事業では、この場所を地域の誰もが自分の居場所となることを願って、出来るだけ多くの大人や子どもにも参加を呼びかけ、みんなで協力し合って机や椅子などを作りたいと思います。参加してくれた子どもたちが生きづらさを感じたとき、何気なく立ち寄って、そこにある机や椅子に腰かけて、頑張った自分を取り戻してもらえたら、きっとかけがえのない日常となるかもしれません。私たちはそんな彼らをずっと見守りたいと思っています。

⑨夏休み工作教室や宿題広場を行うのは、この場所を知ってもらいたい。ということの他に、夏休みなどの長期休みに、育成会に入れない児童（4年生以上）などの居場所として使ってもらうことを目的としています。高齢者にも協力してもらい、多世代の交流の場となることも期待します。

5 申請までの検討経緯
2024 年度、一小まち協にて不登校児童についてのネットワーク会議を 3 回行い、地域の中で子どもや不登校児童やその保護者の居場所がないことに気づく。 2025 年 2 月 21 日 子どもや大人が集える居場所づくりを検討し、併せて駄菓子屋運営することで一致し、「ニノバ交差点の会」を立ち上げる。 同年 3 月より、駄菓子屋としてのニノバを夏休みにオープンできる様、地域の方や子どもたちにも手伝ってもらい、お店作りを始める計画を行う。 補助金の申請の目的は、市役所の方や、市民の方へのアピールになるというメリットもあり、地元の方や、より多くの方に知っていただく事を優先するための活動に絞った内容でチャレンジさせて頂く事とした。
6 事業内容
※実施時期、場所、回数、参加予定人員等を含めて具体的に記載してください。 地域の有志により 2025 年 7 月より、地域の誰もが過ごせる居場所として「ニノバ」を開設する。 その事業内容は、非営利にて①駄菓子屋を運営 ②喫茶コーナーの運営とする。 駄菓子屋では、駄菓子やアイスクリームなどを販売し、喫茶コーナーでは、おしゃべりや、飲食などが行える様になっている。また、運営が軌道に乗れば、子ども食堂を行う予定をしている。 ニノバの運営の仕組みとして、喫茶コーナーで大人が支払ったコーヒー代や提供する料理には、駄菓子の仕入れや子ども食堂の材料費の一部が含まれている事を謳っておく。また、寄付やクラウドファンディングなども利用していく。 事業全体は、年間通じて継続的に行うものとし、今回の補助金申請の事業内容は次の通りとする。 開催場所 ニノバ内で行う。 ①「みんなで作ろう！みんなの居場所」（6~7 月）3 回 各 10 人程度 ・知り合いの大工さんに道具の貸し出しや、指導をお願いし、ニノバで実際に使用する棚やテーブルなどを、地域の方と一緒に作る。また、子どもたちには色を塗ってもらうなど、楽しみながら参加出来るように工夫する。 ②「ニノバで過ごしてみよう」 夏休み中各回 約 2 時間 各 10 名程度 A)・<u>工作教室 1 回目</u>（7 月）「2 回入れ替え制」対象：小学生 ・<u>工作教室 2 回目</u>（8 月）「2 回入れ替え制」対象：小学生 ・<u>工作教室 3 回目</u>（8 月）「2 回入れ替え制」対象：小学生 B)・<u>宿題広場</u>（8 月）「2 回入れ替え制」対象：小学生、中学生 ※地元の大学講師や学生に来てもらい、宿題などを教えてもらう機会をつくる。 C)・<u>夏休み哲学対話</u>（8 月）「2 回入れ替え制」対象：誰でも参加可 ※哲学対話の講師を招き、哲学対話を体感してもらう。 自分の考えを言葉にして他の人と話すことで、自分とは違う考えの人がいることを知り、正しいか？間違っているか？以外にも答えがあることを知る機会として欲しい。参加者みんなで ゆったりと考える時間を過ごしてもらう。

7 市の担当課との事前協議の経過（事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入）
4月14日(火) ・市民協働推進課職員より補助金の概要説明を受ける。 ・テーマの担当課である地域福祉課職員と協議し、「テーマに沿った内容（居場所づくり）ということなので、申請については問題ない」とのこと。 補助金の対象経費についても詳しく教えて頂き、店舗の改装のための経費は対象外となる。という説明を受ける。 4月22日(火) ・市民協働推進課職員に電話にて、事業の詳細をお伝えし、補助金対象経費について詳しく説明していただき、イベントによる材料費、警備員の外注、印刷も外注なら経費として申請できる事を確認する。 5月2日（金） ・NPOセンターにて相談、アドバイスを受ける。 5月12日(月) ・地域福祉課職員と最終打ち合わせを行い、申請書全体の書き方など、丁寧に教えて頂く。メールにて修正箇所を教えて頂き、提出前にも再チェックをして頂く。
8 実施する安全対策
・道路に面した入口に安全柵（フェンスの設置）をつける ・安全コーンを置き、車への注意喚起を行う。 ・工作教室の初日のみ、スタッフも不慣れな事から、警備会社の警備員を配置する。 ・特にイベントの時は、子どもが出入りする時、見守りを行う。 ・年間通して保険をかける。 ・衛生面からは、手洗い場・トイレを設置、アルコール消毒液を設置 ・店舗周りには、子どもが来る場所であることがわかるような掲示物をまちづくり協議会と相談し、「飛び出し注意」等、の掲示物を設置する。